

地域における乳用育成牛県内預託の取組と家畜保健

衛生所の役割：伊那家保 松井宏枝

平成 22 年度、管内の乳用育成牛 100 頭以上が北海道で預託。権兵衛トンネルの開通により木曾地域への所要時間が短縮、また平成 24 年度から木曾地域の M 牧場が受入れを始めたため、管内から M 牧場へ預託開始。M 牧場では預託中の乳用育成牛を借り腹とした ET 和子牛生産事業により、産子を M 牧場で哺育育成後、去勢牛は肥育、雌牛は長野県中央家畜市場へ出荷。M 牧場への預託頭数は年々増加し、平成 27 年度は 176 頭（平成 27 年 11 月末現在）。当所では、地域連携による乳用牛育成、ET 和子牛増産の取組に対し、衛生対策を実施。平成 25 年度には前年度放牧牛の異常産を契機として、県内 3 公共牧場での牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）の感染を確認。以降、入牧前の BVDV 遺伝子検査（平成 27 年 11 月末現在 251 検体）、バルク乳を用いた BVDV 持続感染牛の摘発検査（平成 27 年度実績 178 検体）、牛白血病については入牧前抗体検査（平成 27 年度 11 月末現在 235 検体）を実施。